

学校名	新座市立第四中学校
実施日	令和 5年 1月 13日

＜記入の仕方＞

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、前年度の取組を踏襲するだけでなく、時代の変遷に応じた教育内容の見直しを図っている	A	新しい行事の形を模索したり、校則の見直しに着手したり、既存の活動についてもコロナ禍に応じた取組を推進したり、変化を受け入れ柔軟且つ組織的に対応しようとしている。校則の見直しに際しては、生徒の自治意識や社会を構成する一市民としての意識の向上を目的に、中長期的な計画を策定した。これに沿って、着実な取組を進めていきたい。	A	コロナ禍にあって、いろいろな行事を実行すべく、新たな取組に先生も生徒も協力し、努力されて素晴らしいと感じる。校内組織の見直し、行事の再検討、行事の見直しなど、常に社会の変化に対応した取組も学校全体で行い、結果が出ていると思う。特に、校則の見直しに際して、生徒の自治意識や社会を構成する一市民としての意識の向上の目的に中長期的な計画を策定したことは特筆に値すると思う。今後も継続的に取り組まれることを期待している。
2	学校は、ICTの活用などにより、資質・能力を身に付けられるような授業改善に、学校全体で取り組んでいる。	A	ICTの活用については、校内研修で扱うことはもとより、職員室の中で新しい機能やツールの使い方を相談したり、共有したりする機運が高まっている。その一方で、とにかく「使う」段階からの脱却が必要な時期でもある。とりわけ「資質・能力を身に付ける」視点に立ち、授業や教育活動の目的に見合った活用ができるよう、さらに研究を進めていきたい。	A	学校公開で、複数のクラスが教科の特性に応じてICTを活用していることに興味を持った。生徒が積極的に学ぼうとする姿が印象的で、ICTの活用が、大分進んでいるように思う。また、ICTスキルのステップアップを実感しながら、更なる進化で先生達の負担軽減に繋がれば良いと感じる。
3	学校は、さまざまな課題や悩みを抱える生徒一人一人や保護者に寄り添い、柔軟な発想で最善策を講じている。	B	悩みを抱える生徒や保護者の実情に合わせて、柔軟に対応をしている。校内では、面談の機会はもとより、休み時間等を活用して、教職員が積極的に対応する場面もよく見られる。また、各部会で情報を共有するだけに留まらず、今後の対応方針についても吟味する習慣ができあがりつつある。発達課題があったり、家庭環境が複雑な生徒が、生き生きと生活を送れるよう、生徒同士・教職員同士が多様性を認め合う機運を高めていきたい。	B	社会の多様化に伴い、家庭の問題が複雑になり、課題や悩みも多様化してきているので、学校全体で把握し、先生方同士で対応策を考えるのも良いと思う。また、生徒・保護者に寄り添うだけでなく、学校全体で情報を共有することは非常に有意義なことだと感じた。県の調査データから教職員と生徒の信頼関係がしっかりと築かれおり、さまざまな課題についても根気強く対応し、働きかけをしていると感じる。大変だと思うが継続した支援をお願いしたい。

評価項目「組織運営」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	C	学校全体で「働き方改革」に向けた課題意識は共有している。しかし現実には、勤務時間内に必要な業務が終わらず、持ち帰りや残業をせざるを得ない状況にある。仕事の総量を減らさねばならないのだが、教職員全体で落ち着いて検討する余裕がない。業務改善を企図した施策・取組（働き方改革関連調査、行事をスリム化するための努力、ICT化に向けた準備作業など）が業務改善の足枷になっている。どの分掌を担当しても、誰もが余裕をもって取り組める工夫を重ねる必要があるが、学校として取り組める内容にも限界がある。	B	「働き方改革」に向けて、いろいろと工夫をされているように思う。業務のスリム化は大切だが、なかなか実現しにくいこともあると思うので、難しい課題である。学校の現状と取り組める限界、教育委員会等との調整が必要だと感じる。また働き方改革は、すぐに結果が出るものではないため、実態をデータ化し、それを基にすることで取組も進んでいくと感じる。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて改善計画を考え学校経営を行っている。	B	校長が掲げる「目指す学校像」に連鎖させながら、各自が目標を立て、実践を重ねている。校長の方針は職員会議等でも繰り返し伝えられている。また、学校運営協議会、保護者、地域からの意見等を参考にしながら、定期的に計画の見直し、改善を図るようにしている。	A	運営協議会等でもお話をお伺いし、校長の方針は各所で十分反映されているように感じる。また、保護者、地域などからの意見を取り入れながら、学校経営方針を具現化する努力と計画の見直しや改善をされているのはとても良いと思う。目標が明確に示されていて、それに対応されているように思う。「校長室だより」がすばらしい。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	マニュアルの整備だけに留まらず、不審者対応訓練、避難訓練等を計画的に実施するなど、実際の対応場面を想定した実践的な取組を重ねることができている。ただし、不測の事態はいつ訪れるかわからないので、絶えず確認と見直しを怠らないようにしていく必要がある。	A	マニュアルの作成だけに留まることなく、実際の訓練にも力を入れていることは大切だと感じる。不審者対応は不測の事態だが、地域と不審者情報を共有しながら準備し、実践的な場面を想定した訓練をこれからも続けて欲しい。

評価項目「学力向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	B	埼玉県学力・学習状況調査の結果を分析し、教科毎に具体的な課題や目標を設定し取組を進めている。また、学習内容の理解が深まるよう、授業改善を真摯に行っている。支援員やボランティア学生が複数名おり、対応が必要な生徒への個別の支援が行われている。	A	支援員やボランティア学生などのサポートができてるのが素晴らしい。具体的な課題や目標を設定することで問題点が浮かび上がってくると思うので、今後も理解が遅れている生徒にしっかりと対応してもらいたい。第2回の会議資料でいただいた全国学調の正答数分布を拝見すると、概ねJ型分布になっていて安心した。これがM字型になっていると大変やりにくくなるかと思う。日頃、先生方の粘り強い取組に敬意を表する。今後についても教科毎の取組、授業改善と現状に満足することなく努力されることは必ず生徒の学力向上に繋がっていくと感じる。
8	学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	発表や話し合い活動の時間を取り入れ、生徒自身に考えさせる活動を行っている。ICTの活用が進み、従来の授業よりも各教科で生徒が自らの考えを伝えやすい環境に変化しつつある。教科によって、深い学びに繋がるアプローチは異なるので、教科固有の「見方・考え方」について、教職員同士でじっくりと考察する機会を設定する必要がある。	A	これからは生徒主体の活動が大切だと思う。自分の意見をしっかり表現できることが、これからの時代には必須であり、授業毎にそれぞれのアプローチを考えることは素晴らしいことだと感じる。さらに『伝えたいことをわかりやすく』伝えるための伝える力の育成にも取り組んでほしい。課題としてはB評価が伸びて、A評価が減少してしまったことなので、ICTを活用し、「見方・考え方」の資質・能力の向上に繋がる工夫をこれまで以上にお願いしたい。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	学習指導要領等を踏まえた年間指導計画を作成し、それに即した学習指導を行っている。発達段階や学力の個人差は大きいので、「学び合い」を活かした取組等を工夫している。しかし、十分とは言えない。学業不振の生徒への働きかけ等、個別最適な学びの実現に向け工夫を重ねる必要がある。	A	授業を見せていただいで”学び合い”を活かした取組が出来ていると感じた。生徒同士で教え合っている姿を見てほほえましいと感じた。個に応じた指導にも工夫し努力されていることに敬意を表する。8項と逆でA評価が伸び、C、Dが増えているので、個別の注意を促しながら、今後も、さらに工夫し、一人一人の支援を継続してほしい。
10	学校は、カリキュラムマネジメントを推進しsociety5. 0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	SDGsが掲げている「誰一人取り残されない社会」の理念を踏まえ、ICTを積極的に活用した取組は展開されている。しかし、生徒に貸与するクロームブックの扱いについては、課題がある。使い方を制限するだけではなく、自ら考えて適切に使えるネットリテラシーを身に付けさせることが急務である。	B	ネットの使い方、SNSとのつきあい方などは保護者にも、さらに理解を深めてもらう必要があると感じる。いろいろな取組を実践するうえで、新たな課題があり、そこが難しい部分であると理解している。端末の持ち帰り後の扱いについては大変難しい問題であり、各校で頭を悩ませていると聞いているが、。ネットリテラシーの育成については学校の指導にも限界があり、家庭を巻き込んでいく必要性を感じる。一定の学力グループの中でA評価が増えているのは良い傾向と思う。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	B	教職員は、率先垂範を旨として、あいさつの大切さなど折に触れて指導している。自ら挨拶する生徒は多く、来校者からも評価いただく機会が多い。その一方で、言葉遣いについては課題がある。TPOをわきまえられる力を育成するために、教職員全体で、状況に応じた言葉遣いができるよう指導する必要がある。	A	学校に伺うと、いつも生徒の皆さんが積極的に挨拶をしてくれる。受け答えも丁寧に対応してくれこちらも気持ち良く、日頃の指導が行き届いていると感じる。一方で本評価の下落(Cが増えたこと)が気になる点である。挨拶は先手の挨拶を職員が先か、生徒が先かを個々で認識する必要があり、言葉遣いもその上で「です・ます」が心を込めてできるものだと感じる。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	生徒一人ひとりが認められる存在として自己肯定感を高めさせ、いじめや意地悪をなくしていくことを目指している。未然防止、早期発見、早期対応は行えている一方で、SNSの誤った扱いでトラブルに発展するケースもあり、家庭と連携しての指導が十分奏功しているとは言えない。また、問題行動を起こした生徒に対する毅然とした対応等の働きかけが十分でないこともある。こうした課題を踏まえて、子どもの成長を促す積極的な生徒指導が推進できるよう努めていきたい。	B	・最近のいじめなどは、ネット(SNS)上でのことが多くなっていて、なかなか把握するのも難しいと感じる。一人でどんなことにも立ち向かってほしいが、現状では課題が多くある。そのため生徒に寄り添う行動が、今の子どもたちには必要である。いじめは、そのつもりがなくとも、いじめに繋がる可能性がある。特にSNSによるトラブルの発見は難しく、指導も難航する状況になりやすいため、先生方の日頃のご指導を評価している。
13	学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	B	教職員は率先垂範で生徒に接している。言葉遣い、服装等は管理職からの注意喚起もあり、多くの職員が意識している。生徒との距離感を適切に保ち、規範意識を高める指導を行っている。	A	・生徒との距離感は難しいと思うが、生徒も社会の一員である、という意識を持たせることは大事なことだと感じている。一方で人間としては対等でも先生と生徒という距離感を教えることも大切である。その中で、先生方は生徒たちに寄り添いながら指導されていると思う。四中の生徒さんの様子を見る限り、常に良好な関係であると感じている。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	休み時間に、室内で過ごす生徒が多い傾向がある。昼休みにボール等を貸し出したり、授業で運動量が確保されている一方で、コロナ禍で体育的活動の制限もあり、今まで以上にというのは難しくなっているのが現状である。行事や授業の進め方、部活動の在り方等も含め、生徒の体力向上に繋がる具体的な手立てを検討していく必要がある。また、保健体育の授業では、ロイロノート等を活用し見通しや学習準備を行わせることによって、必要十分な活動時間を確保している。	A	コロナ禍で体力向上は難しい課題だが、ボール貸し出しや授業の運動量確保など、地道な対策が将来実を結ぶと思う。体育の授業であらかじめ動画で内容を見てもらい、実技にたくさん取り組めるようにという試みはとても良いと感じる。また、部活の現状に不安を感じているが、そんな中でも工夫し、生徒の活動意欲を向上させて欲しい。具体的な取組が難しい時代なので、具体的な取組が見えないという課題もあるが、いろいろ模索しながら、他校のケースなども参考するとよい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	給食の時間において、放送される「給食室からの連絡」には、生徒の興味を引く内容を取り入れている。食文化を豊かに享受させることを考え、食育を推進している。生徒によっては、残食量や好き嫌いが激しい傾向もあり、課題である。「食品ロス」等の今日的な食課題について、自分事として捉えさせる機会を設ける必要がある。	B	食に対する考え方は将来に繋がると思う。その上で、「食品ロス」について生徒たちにも理解してもらうためにどのくらい残飯があるのか知らせても良いのではないかと思う。生徒の給食時に放送による「給食室からの連絡」は面白い試みだと感じる。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	地域の方からの意見に対しては迅速に対応できるように努力している。また多くの保護者が学校に関わっている。アンケートなどを活用し、要望などを取り入れる機会としていく。また、学校の実情を説明する機会をなるべく多く設けることで要望を反映させられるようにしていく。	A	校長と話し合う機会が持ちやすくなり、学校に意見を発することのできる機会が設けられていると感じる。また、学校運営協議会に参加させていただくたび、四中は開かれた学校であり、積極的に対応し地域との連携も素晴らしいと感じる。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	ホームページを更新し、定期的な学校だよりによって教育活動の様子を伝えている。合唱祭の様子についてもHP上で動画配信(保護者向けの限定公開)した。「学校の様子がわからない」という保護者、地域の声もあるので、さらに工夫を重ねたい。インターネットを活用した情報提供・情報共有の方法をさらに模索していきたい。	A	ホームページの定期的な更新により、保護者以外にも学校の様子がよく分かる。その中で、学校だよりを拝見し、日々の先生方、生徒の活動に感動し、積極的な取組を評価している。ホームページが充実しており、校長室だよりではタイムリーに学校の様子が分かるので素晴らしいと感じる。校長のリーダーシップのもと、地域との関わりを大切にしていると感じる。ホームページなどで学校の情報がよく伝えられ、ふれあい連絡協議会でも学校の様子が詳しく報告されている。
18	学校は、コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	B	定期的に運営協議会を開くとともに、運営協議会による学校公開を実施した。教育課程の編制・実施に当たり、十分な協議を進めているが、協議内容等について教職員と共有する体制を整える必要がある。	A	学校運営協議会に向けて1週間学校公開をするなど、さらに開かれてきていると感じる。現状の環境下、よく頑張っていると思う。学校運営協議会に参加させていただき、開かれた学校、地域連携の在り方を感じることができた。運営協議会も見直しによる変化が必要で、さらに協働できる協議会にしていきたい。